

## 10. 目標値の設定

都市計画運用指針や立地適正化計画策定の手引きによると、計画の必要性や妥当性を市民等の関係者に客観的かつ定量的に提示する観点から、計画策定に当たり、問題解決のための施策・誘導方針に期待される効果について、目標値を設定することが重要であり、例えば居住誘導区域内の人口密度等が考えられるとされています。これを踏まえ、本計画の目標値を設定します。

### ① 目標年次

目標年次は、**2040（令和 22）年**とします。（1.6 立地適正化計画の目標年次 参照）

### ② 地域別（都市計画区域ごと）の推計人口

地域別の将来人口については、2040（令和 22）年における本市全体の将来人口を基に、都市計画区域ごとの年齢階層別人口を用いてコーホート要因法により推計を行いました。

▼地域別の将来人口

	H22 国調人口（人） （H25 基礎調査）		R22 推計人口（人） （社人研 <sup>※1</sup> ）	
鹿児島市域全体	605,846	⇒	519,563	各地域においても減少する推計となっている
鹿児島都市計画区域	556,597		481,869	
吉田都市計画区域	7,430		6,722	
喜入都市計画区域	11,926		8,962	
松元都市計画区域	14,124		12,671	
郡山都市計画区域	6,651		5,253	

※1 「社人研」 国立社会保障・人口問題研究所

### ③ 居住誘導区域の将来人口

全国の自治体における人口と 1,000 m<sup>2</sup>以上の商業施設（全国大型小売店総覧）の店舗数は、概ね正の相関関係となっており、この全国水準に基づくと、本市の居住誘導区域内の全人口（約 52.6 万人）に対して、商業施設数は若干少ない程度となっております。

社人研の推計では、2040（令和 22）年に本市の居住誘導区域内の全人口が約 46.8 万人に減少（現状より約 11%減）すると推計されており、この全国水準に基づくと、1,000 m<sup>2</sup>以上の商業施設は現状より少なくなると想定されます。

このため、現状の商業施設の維持を図るという観点から、目標年次における居住誘導区域の人口を社人研推計より**約 8%増加**（現状より約 3.8%減にとどめる）させた目標人口として設定します。

▼居住誘導区域と商業施設との関係

	現在値（H22 国調）		社人研（R22 推計値）	目標人口（R22）
居住誘導区域人口	525,701	⇒	468,475	506,000
商業施設	72		67	72

将来においても現状商業施設規模を維持

#### ④ 維持すべき人口密度の設定

目標年次である2040（令和22）年の居住誘導区域の目標人口を社人研よりも約8%増加した**50.6万人**と設定し、都市計画区域ごとの算定は、各居住誘導区域内の人口構成比等で補正を行って、目標人口を算定しました。

▼都市計画区域ごとの将来人口と人口密度

	H22国調(H25基礎調査より)			①R22 推計(社人研)					②R22 推計(商業施設維持からの推計)			
	人口 (人)	区域面積 (ha)	人口密度 (人/ha)	人口 (人)	人口増減 (人)	増減 比率	区域面積 (ha)	人口密度 (人/ha)	人口 (人)	増減 比率	区域面積 (ha)	人口密度 (人/ha)
鹿児島市域全体	<b>605,846</b>	54,722	11.1	<b>519,563</b>	<b>-86,283</b>	85.8%	54,722	9.5				
鹿児島都市計画区域	556,597	29,018	19.2	<b>481,869</b>	<b>-74,728</b>	86.6%	29,018	16.6				
市街化区域	513,390	8,405	61.1	<b>455,054</b>	<b>-58,336</b>	88.6%	8,405	54.1				
居住誘導区域	502,800	6,839	<b>73.5</b>	<b>446,982</b>	<b>-55,818</b>	88.9%	6,839	<b>65.4</b>	<b>482,484</b>	96.0%	6,839	<b>70.5</b>
吉田都市計画区域	7,430	650	11.4	<b>6,722</b>	<b>-708</b>	90.5%	650	10.3				
居住誘導区域	5,725	210	<b>27.3</b>	<b>5,340</b>	<b>-385</b>	93.3%	210	<b>25.5</b>	<b>5,849</b>	102.2%	210	<b>27.9</b>
喜入都市計画区域	11,926	2,905	4.1	<b>8,962</b>	<b>-2,964</b>	75.1%	2,905	3.1				
居住誘導区域	6,470	394	<b>16.4</b>	<b>5,002</b>	<b>-1,468</b>	77.3%	394	<b>12.7</b>	<b>5,491</b>	84.9%	394	<b>13.9</b>
松元都市計画区域	14,124	3,171	4.5	<b>12,671</b>	<b>-1,453</b>	89.7%	3,171	4.0				
居住誘導区域	8,045	389	<b>20.7</b>	<b>8,352</b>	<b>307</b>	103.8%	389	<b>21.5</b>	<b>9,141</b>	113.6%	389	<b>23.5</b>
郡山都市計画区域	6,651	2,740	2.4	<b>5,253</b>	<b>-1,398</b>	79.0%	2,740	1.9				
居住誘導区域	2,661	234	<b>11.4</b>	<b>2,799</b>	<b>138</b>	105.2%	234	<b>12.0</b>	<b>3,035</b>	114.0%	234	<b>13.0</b>
居住誘導区域 計	<b>525,701</b>	8,067	<b>65.2</b>	<b>468,475</b>	<b>-57,226</b>	89.1%	8,067	<b>58.1</b>	<b>506,000</b>	96.3%	8,067	<b>62.7</b>

各都市計画区域の居住誘導区域の人口密度は、国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）の推計を基に算定すると、目標年次である2040（令和22）年は一部の区域を除き減少することとなりますが、本計画においては、現状の商業施設の維持という観点から、目標年次の居住誘導区域の人口を算定（社人研推計より約8%増加）し、これを踏まえた都市計画区域ごとの居住誘導区域の人口密度を目標値として設定します。

なお、本市では、2022（令和4）年3月に「第2期鹿児島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「総合戦略」という。）を策定しており、この総合戦略とも整合を図りながら施策を推進して、人口減少を抑え、一定の人口密度を維持することとしております。

▼維持すべき居住誘導区域の人口密度（目標値）

都市計画区域	居住誘導区域の人口密度				
	目標指標	策定時 (2010年国勢調査ベース)	改定時 (2020年国勢調査ベース)	社人研 (2040年推計値)	目標値 (2040年)
鹿児島		73.5人/ha	71.5人/ha	65.4人/ha	<b>70.5人/ha以上</b>
吉田		27.3人/ha	25.2人/ha	25.5人/ha	<b>27.9人/ha以上</b>
喜入		16.4人/ha	18.0人/ha	12.7人/ha	<b>13.9人/ha以上</b>
松元		20.7人/ha	26.8人/ha	21.5人/ha	<b>23.5人/ha以上</b>
郡山		11.4人/ha	13.1人/ha	12.0人/ha	<b>13.0人/ha以上</b>